

○現状と課題

- ・全国的に労働力の流動化が進む中で、本村においても転職、離職等で職員が減少している。安定した行政運営を実現するためには人材の確保が必要である。
- ・人材育成の方針や計画が不明確であり「選ばれる役場」になっていない。また、専門性の高い分野の業務が増しており、職員が対応しきれない場面が多くなっている。

○取組の方向性

- ・既存の採用方法に関わらず、多様な方面から人材確保の手法を検討し、適宜実施する。
- ・人材育成方針を策定するなど、計画に基づいて人材を育成するための仕組みを構築する。
- ・専門性が高く既存の職員だけでは対応できない業務については、国や県の支援制度などを活用しながら積極的に外部人材を登用する。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・山添村で働いてよかった、もっとよくしたいと思えるような職員のモチベーションアップ（村外からの職員の離職率が高いように思うので、サポートの充実）をしてほしい。（40代・回答なし）
- ・山添村の運営が新しいものになってきていると実感しています。（40代・女性）
- ・村道を清掃している役場職員を見かけた。このようにインフラ維持のために考えて行動できる人材が大切。（40代・男性）
- ・地域の事を理解してくれている職員が減るのは村の財産の消失です。また、次世代を担う職員は確保できているのでしょうか？（50代・女性）
- ・役場の対応で「担当者がいないのでわからない」は困ります。ある程度はできるようにしてほしい。（70代・男性）
- ・中堅職員の退職が多い。上下関係、コミュニケーションの希薄さが原因の一つでは？厳しさと優しさが同居するような環境整備が必要。良い村なので頑張る。（70代・男性）

○具体的な取組

1 人事戦略の構築

- ・職員の能力開発やモチベーションの向上など効果的な評価システムを構築し、行政サービスの向上と持続可能な組織の体制整備に向け、人材育成方針等の策定を行う。

2 人材の育成

- ・人材育成方針において「めざす組織像」「求める職員像」を明確化し、階層ごとに求める役割と必要な能力を定義することにより、地域に求められる職員の育成を行う。

3 外部人材の登用

- ・地域活性化起業人や外部専門家を積極的に登用し、複雑化する地域課題に対応する組織づくりに取り組む。

○現状と課題

- ・行政運営の厳しさが増す中、質の高い行政サービスを提供し続けていくためには、行政運営のあり方や仕事の仕組み、働き方の環境を柔軟に変えていくことが不可欠である。
- ・全国的な労働力が減少する中で将来迫り来る困難な課題の解決を実現するためには、職場環境や事業内容などの抜本的な見直しが必要である。

○取組の方向性

- ・従来からの業務である宿日直のあり方、電話対応や開庁時間などの対応などの運用を明確にしていき、働きやすい職場環境をつくる。
- ・予測不可能な社会の中で複雑多岐化する課題に対応するため、これまでの「手続き処理型」から「問題解決型」の人材育成に取り組む。
- ・役場の働き方を再デザインし、戦略的な人事に取り組むことで「選ばれる役場」をめざす。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・山添村の運営が新しいものになってきていると実感しています。（40代・女性）
- ・役場の処遇や体制にも批判がありますが、私は職員のストレスのベースは、不満圧力が連鎖しているのではないかと感じます。（40代・男性）
- ・退職者が大変多い事に驚く、若い子だけでなく、先頭に立って頑張っていかなければならない様な方まで退職される役場内の雰囲気が悪く暗い。（60代・女性）

○具体的な取組

1 効率かつ効果的な行政運営の推進

- ・限られた行政資源や人的資源を有効活用するため、デジタル技術も活用しながら行政サービスの質の向上を図る。

2 公文書管理の徹底

- ・公文書を適正に保存、管理することで、村民が必要とする公文書を正確かつ迅速に提供できる体制を整備する。

3 働き方の再デザイン

- ・現場目線での業務の見直しや、職員本位での働き方に関する諸制度の整備・活用推進を図り、役場職員が、それぞれのライフスタイルとライフステージに応じて、夢や生

きがいを持てる働き方を再デザインするための取り組みを推進する。

- ・複雑多岐化する地域課題に対応するため、庁内横断的な事業推進や外部からの専門人材の積極登用などを行い、柔軟性のある組織運営に努める。

むらづくりの分野6-4 財源の確保

○現状と課題

- ・本村の財政状況は、歳入面では地方交付税の減少や村税の減少、歳出面でも社会保障費関連経費や公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増大が見込まれ、今後も厳しい財政状況になることが予測される。
- ・限られた経営資源を最大限活用しながら未来への投資を行うため、選択と集中による事務事業の見直しを行い、優先順位を明確にして事業を実施する必要がある。
- ・国・県の補助制度や地方債制度の効果的な活用とふるさと応援寄附金制度の活用など自主財源の確保についての取組を強化し、健全な財政運営を推進する必要がある。

○取組の方向性

- ・村税収納率の向上を図るとともに、国・県の補助制度や地方債制度の効果的な活用と自主財源の確保についての取組を強化し、効率的な財政運営の推進により、財政の健全化を図る。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・まず税収を増やすためにも村内への企業とのつながりは必須です。（40代・男性）
- ・公平公正な税金の確保をお願いします。（50代・男性）

○具体的な取組

1 自主財源や多角的財源の確保

- ・全ての業務において、歳入の拡大の可能性を検討し、新たな手法等を取り入れ、収益拡大・財源確保を図る。
- ・ふるさと応援寄附金制度の推進に取り組み、財源の確保に努める。
- ・税制改正等に迅速に対応し、適正かつ公正な課税および徴収を行い、安定的な自主財源を確保する。

○現状と課題

- ・生産年齢人口の減少による労働力の供給制約や生成A I など近年の技術革新によりI C Tを活用して行政サービスを効率的に提供する「スマート自治体」への転換が求められている。
- ・人口減少が進展する中で、より少ない職員でも自治体運営が可能となるよう、住民サービスのデジタル化やP C 端末の整備など、効率的な行政運営を確立する必要がある。
- ・最新技術の活用など、既存の職員だけでは対応しきれない専門的分野については、国や県などの支援制度を活用しながら外部人材を積極的に登用する。

○取組の方向性

- ・業務システムの標準化・共通化や行政手続きのオンライン化、生成A I などの最新技術を通じて自治体のデジタル変革を進め、行政サービスの向上や業務の効率化を図る。
- ・テレワークなど職員の働き方の変化にも対応できるよう、ネットワーク整備やP C 端末の調達を行う。
- ・システム運用経験のある情報システム専門人材を確保し、デジタル化を確実に推進する。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・インターネットを駆使して地域と密着した役場業務をしてはどうでしょうか。（60代・男性）
- ・デジタルを活用した行政運営の推進。（40代・男性）
- ・多くの行政手続きが紙や対面を前提としており、時間的に負担が大きい。行政のデジタル化を進めてほしい。めえめえアプリ、とても便利で活用しています。（40代・女性）
- ・アンケートのペーパーレスや若い人にむけた物ならQ Rコードでできるムダをなくそう。働いていると平日に役場などに行けないので。（50代・女性）
- ・めえめえアプリを通して流れてくる情報は、気象情報ばかりで肝心の行政のことや議会のテレビ放送など肝心なことは調べないと載っていない。（年齢・性別回答なし）
- ・新聞を購読していない家庭にも山添広報は配布してほしい。（70代・男性）
- ・防災行政無線で、一斉に伝達できるシステムは非常によい。ありがたいことに、近年スマホで見えるようになりましたが、多くの方が使っているのでしょうか。（70代・男性）
- ・デジタルの分からない者にも分かる事をお願いします。（80代・男性）

○具体的な取組

1 先進技術を利用した行政サービスの向上

- ・行政の手続きや業務運用の効率化・高度化をめざし、新たな情報通信、A I（人工知能）等の先進技術の導入や、情報システムのクラウド化を推進する。
- ・先進技術の導入を進めるとともにそれらの変化に対応した情報セキュリティ対策に取り組む。
- ・今後の更なるデジタル化の進展に備え、庁内の情報インフラを安定的に運用していくため、中長期的な視点でデジタル人材の確保と育成を図る。

○現状と課題

- ・ 少子高齢化、財政基盤の脆弱化、社会インフラの老朽化等の課題に対し、行政の資源やノウハウ等が限られた中で、行政のみで多様な村民のニーズに適切かつ持続的に応えていくことが難しい状況になっている。
- ・ 国が公民連携を推進するなかで、山添村においても将来にわたる健全な財政運営と効率かつ効果的な行政運営を推進していくために、民間資源の活用等に取り組む必要がある。
- ・ 人口減少や少子高齢化の大きな波が来ると予想される将来において、行政のみの力で事業を成功させることは難しく、民間活力の活用が求められる。

○取組の方向性

- ・ これまで本村が単独で取り組んできた分野に民間企業等（企業、大学、法人格を有しない団体など公に属さないさまざまな組織、団体を含む）の力を活用する。
- ・ 民間企業等を「対等なパートナー」として互いの特性や資源を最大限に活かし課題を解決し、新たな価値を創造することで、村民視点のむらづくりを推進する。
- ・ 専門性の高い事業者と強固な連携を行い、行政と民間が互いにW i n - W i n の関係性を構築する。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・ イベント的なことは他でもやっているの、従事する人材は全職員の半分の投入でよく、積極的に民間の活力を導入するよう務めてほしい。（40代・男性）
- ・ 民間の活力に託することも必要かとは思いますが、行政自体が核となった取り組みを根気強く進めていくことが大切かと個人的に思います。（60代・男性）

○具体的な取組

1 民間活力の活用

- ・ 住民サービスの質の向上と効率化を図るために積極的に民間事業などの活力を活用するほか、多様化する地域課題を解決するために民間の発想や経営手法（PPP／PFI等）を取り入れ、質の高い行政運営を図る。

2 官民連携の推進

- ・ 民間企業等を「対等なパートナー」として互いの特性や資源を最大限に活かし課題を解決し、新たな価値を創造することを目的に、積極的に連携協定等を締結するなど官民連携の取り組みを推進する。

○現状と課題

- ・本村では、「大和まほろば広域定住自立圏」（平成27年3月）と「伊賀・山城南・東大和広域定住自立圏」（令和2年4月）の2つの定住自立圏を形成し、さまざまな分野で、行政の効率化を図り、住民にとって質の高い持続可能な地域社会の実現をめざしている。
- ・将来にわたって持続可能な形で行政サービスを提供していくためには、近隣あるいは遠隔の自治体が連携し、相互に補完し合いながら行政サービスを維持していくことが必要とされている。

○取組の方向性

- ・「大和まほろば広域定住自立圏」と「伊賀・山城南・東大和広域定住自立圏」をはじめ、近隣あるいは遠隔の自治体間での連携を強化し、それぞれの強みを活かした効率的な行政運営を実現する。
- ・あらゆる分野で持続可能な行政運営を行うため、定住自立圏の市町村だけでなく、国や県、近隣市町村との連携事業を検討する。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・山添村の東側は、伊賀上野、名張との結び付きが強い。県をまたいだ行政が不可欠。名阪国道も通ってるので、これらの地理的アドバンテージを生かして何かすべきです。（40代・男性）

○具体的な取組

1 定住自立圏共生ビジョンに基づく事業の推進

- ・「大和まほろば広域定住自立圏」と「伊賀・山城南・東大和広域定住自立圏」との連携を強化し、行政サービスの維持・向上につながる取り組みを推進する。

2 多様な広域連携の推進

- ・定住自立圏での市町村連携だけではなく、近隣市町村（奈良市、宇陀市、南部東部地域市町村等）や遠隔の自治体等との連携を推進することで、各自治体の強みを活かした事業の広域展開や、人材交流を進め、1つの自治体だけではできなかった新たな自治体運営に挑戦する。

第7節 ひとりひとりが活躍できるむらづくり

【あるべき姿（4年後のゴール）】

「ひとりひとりが活躍できるむらづくり」の実現に向け、全村民が主体となり、互いに支え合いながら、自分らしい生き方を見つけられる社会の実現を核としています。

住民協働については、年齢や背景に関わらず「みんなが寄り添い、互いに助け合いながら、自分らしく暮らすことができる」地域社会を築くことをめざします。地域活動への参加を促し、相互扶助の精神を育むことで、誰も孤立することなく、それぞれの能力と個性を活かして地域を支える仕組みをつくります。

また、共創の理念に基づき、村民と行政が対等な立場で互いに寄り添いながら、ともにむらづくりを行う体制を確立します。行政が一方的にサービスを提供するのではなく、村民の知恵やアイデア、活力を積極的に取り込み、課題解決や政策形成に反映させます。この行政と村民の協働による「共創」の推進こそが、持続可能で質の高い行政サービスを提供し、全村民が村づくりの主役として活躍できる活気あるむらづくりへとつながります。

○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
大字活動への支援が充実している	24.1
住民参画によるむらづくりが進められている	26.5
地域における交流やふれあいの機会が充実している	26.3

○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
地域づくり支援事業の取組み件数	62	73
むらづくりの分野 7-1		
アンケート等で収集した意見数	200	500
むらづくりの分野 7-1		

出張村長室の延べ開催数	—	8
むらづくりの分野 7－2		

○現状と課題

- ・村内全域の集落において高齢化は進んでおり、伝統行事・道路・用排水路・農地などの維持管理を集落で行うことが難しくなっている。
- ・高齢化率は50%を超え、高齢者の独居世帯、高齢者のみの世帯が増加傾向にあり、今後、支援の必要な集落は拡大することが予想される。
- ・村の豊かな自然をはじめ、歴史・文化などは、都市部にはない魅力・価値があり、こうした資源の保存・伝承、さらには活用によって地域の活性化に結びつけるためにも、大字などの地域づくり活動への支援や、ボランティア活動などとの連携を強化していく必要がある。

○取組の方向性

- ・今後、集落機能の低下が著しい集落の増加が見込まれることから、集落の困りごとを把握し、集落機能の維持、さらに集落活性化のための支援対策を進める。
- ・村民が暮らしのさまざまな場面で寄り添い、助け合いながら、高齢になっても安心して生活できる環境づくりのため、地域コミュニティづくりを支援する。
- ・大字、ボランティア団体などとの連携を強化し、村民が地域行事などに参加しやすい体制と活力ある豊かな地域社会づくりを進め、交流の場を広げる。

＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・どんな人（海外から来た人、帰国子女など）でも住みやすい村にしてほしい。そのためには、“英語”という言語を通して、たくさんの“繋がり”を作ってほしい。
（20代・女性）
- ・本当に困っている人に手を差し伸べられる社会になってほしいです。（30代・女性）
- ・『互いに寄り添い支え合う』ではなく、対立や分断が目立ってしまっていて残念。住民同士互いの意見を尊重し合いながら、安心して本音で話したり対話ができる村になってほしい。（40代・女性）
- ・住民の奉仕作業など、なんでも毎年どおり前年のとおりにするという圧力があり、表立って言われずとも影口をささやかれる。女性や若者が参画しやすい地域づくりの推進が必要ではないか。（50代・女性）
- ・山添で住んでいるみんなが幸せになれる政策をしてもらいたいです。（60代・女性）
- ・大字の役員が、仕事との両立が難しく、役員をしながら住めないのではないかと思います、村外に引っ越したり、帰って来ない原因になっているのではないかと。（60代・男性）
- ・若者達が戻っても、負担にならない役割（区長、その他）。（70代・男性）
- ・広く次世代の意見を聞いて村政に反映する。（70代・男性）

- ・女性や若者が参画しやすい地域づくりの推進、子どもの育成支援を通じて、ごく普通の人間が、ごく普通に暮らしていける世の中であることを願っています。

(70代・男性)

○具体的な取組

1 集落対策

- ・集落の機能維持と活力向上のため、集落の困りごとの把握や集落へのサポート体制を強化し、集落の実態に応じて必要な支援を行う。
- ・民間企業や社会福祉協議会などとの連携に加え、外部団体やボランティア、大学生などの受け入れ体制づくりを行う。

2 地域活動の支援

- ・自然や伝統文化などの資源を活用した地域活動を村内団体だけではなく、外部の人材や団体を招致し、地域との連携を強化し、魅力と活力ある豊かな地域社会づくりに向けた取り組みの支援を行う。

○現状と課題

- ・協働・共創のむらづくりを推進するためには、住民自治の考えに基づき、村の課題や取組みなどについて村民、議会、行政がそれぞれの役割や責務を果たしていく必要がある。
- ・特に若者や女性のむらづくりへの参画が十分に進んでいないことが課題であり、若者や女性の意見をむらづくりへの反映や、村内外の多様な意見に対応していくことが必要になってきている。

○取組の方向性

- ・すべての人が明るく、楽しく、前向きになり、豊かに暮らせる地域社会をめざしていくために、協働・共創のむらづくりが必要であることについて、意識改革を推進する。
- ・デジタル技術などを活用してむらづくりの情報を共有し、政策の計画段階から村民・議会・行政が議論を深め、村民の多様な参画による協働・共創のむらづくりの具現化を図る。

<こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・行政について、村民が関心を持つために行政の内容を知る機会が欲しい。（20代・男性）
- ・山添村になって何十年も経つのに、旧村単位で物事を捉えている。山添村のこれからを考えるにあたっては、一つの村として議論できると良いな。（40代・女性）
- ・10年前に比べて、地域に無関心な住民が増えているように感じる。自分や家族が優先の人が増え、『自分達の地域』という意識が少ない。（40代・女性）
- ・不満からではなく、協働や連携して課題を一緒に解決したい。何気ない会話含め、コミュニケーションをとり、協働・連携している姿を見せたい。（40代・男性）
- ・村はもっと、住民にとってプラスもマイナスも正確な情報を開示し、共に課題を捉えて、住民同士で考える機会や場をもち、一つになっていくようにしてほしい。（40代・女性）
- ・自治会活動の役員に負担が多くせつかくの自然の豊かさや人のつながりの良さを実感できないのではないかな。（60代・男性）
- ・「小さな事からでも」と考え、行事にはできる限り参加するように心がけております。（70代・女性）

- ・地域が一体となって前に進むためには、まず行政が信頼される存在であってほしいです。若い世代が希望を持ち、安心し「住民と共に歩む姿勢」を強く求めたい。（６０代・女性）
- ・目安箱を設置して欲しい。（７０代・男性）
- ・区長会も役場から報告をするだけで集めても時間の無駄。仕事においても丁寧なのありがたいが、もっと能率を上げるなど、役場の職員に民間からの雇用を考え、やってみては！（６０代・男性）
- ・若者の山添観（感）も聞いてみるべきと思う（外に出ている若者にも）。山添村は名阪の中心にあり、決して未来は暗くはない地域にあるから。（７０代・男性）
- ・８０００人居たときは村会議員が１３人で今３０００人村民が居る。次回の村議選で議員は４人か６人に減らせないものか。（７０代・男性）
- ・住民が行政に関する自由な意見を言える場を創設してほしい。（７０代・男性）

○具体的な取組

１ 議会・行政・村民の共通意識の推進

- ・議会・行政が共通の認識を深め、村民とともに協働・共創によるむらづくりを進める。

２ 情報共有と広報広聴機能の充実

- ・広報紙やケーブルテレビ、ホームページ、ＳＮＳなどを活用し、若者から高齢者まで受け手に合わせた分かりやすい情報の提供と共有化を図る。
- ・土地情報システム（ＧＩＳ）を活用し、行政情報の公開と、住民からの地域情報の提供を双方向に行える体制を整備する。

３ 意見収集の充実と村政への住民参加の促進

- ・多様な意見を計画等に反映するため、村長をはじめ役場職員等が地域に赴き住民と会話する「主張村長室」を実施する。
- ・デジタル技術も活用し、「村民の思い」を多世代から幅広く収集し、政策決定の検討基準とする。

４ 多様な人材の参画

- ・各地域や幅広い年齢層などからの意見が反映できるようにするため、参画しやすい環境づくり・サポートにより、村民参加によるむらづくりを進める。また、誰もがそれぞれの個性と能力を発揮しさまざまな活動を行える協働・共創によるむらづくりを推進する。

５ 地域コミュニティとの連携

- ・地域コミュニティ（大字）との連携を深め、「自助・共助・公助」の考えのもと、地域

の活性化や防犯・防災、環境保全、福祉などのほか、人口減少や高齢化によって地域コミュニティが抱える課題の解決や維持・活性化に向け、ともに取り組む。



第4部

資料編

(写真等掲載予定)

第1章 計画の策定経過等

1 やまぞえ未来創生計画会議委員名簿

【令和6年4月1日～令和8年3月31日】

(公募委員のみ、令和6年5月1日～令和8年3月31日)

やまぞえ未来創生計画会議（全体会）

役 職	氏 名
会 長	窪 田 節 三
副会長	上 浦 俊 明

●保健・福祉部会

役 職	氏 名
部 長	三 宅 正 行
委 員	堅 村 信 介
	窪 田 節 三
	新 瀬 喜 光
	檜 森 武 博

●経済・建設部会

役 職	氏 名
部 長	奥 谷 正 美
委 員	谷 口 信 一
	田 中 守
	窪 田 尚 二
	北 中 康 友

●総務・教育部会

役 職	氏 名
部 長	神 保 弘 治
委 員	上 浦 俊 明
	中 田 理 沙
	上 森 康 弘
	堺 隆 宏
	田 和 善 博

2 策定経過

年月日	概 要
令和7年7月1日 ～7月30日	住民アンケートの実施（村内在住 800 人対象）
10月29日	やまぞえ未来創生計画会議（有識者会議） ・基本構想政策大綱について ・各部会にて意見討議
11月27日	やまぞえ未来創生計画会議（有識者会議） ・やまぞえ未来創生計画（案）について ・各部会にて意見討議
3月 日	山添村議会 ・やまぞえ未来創生計画（案）について

第2章 要綱・規程

1 やまぞえ未来創生計画会議設置要綱

やまぞえ未来創生計画会議設置要綱

平成27年7月31日
山添村告示第55号

(設置)

第1条 山添村は、少子高齢化の進展に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力あるむらづくりを推進するため、やまぞえ未来創生計画会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 村長の諮問に応じ、やまぞえ未来創生計画の策定又は変更について調査審議を行う。
- (2) 前号に定めるもののほか、やまぞえ未来創生計画に定める施策の進捗状況について評価検証する。

(組織)

第3条 会議は、委員20名以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから村長が委嘱する。

- (1) 知識経験を有する者
- (2) その他村長が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長をそれぞれ1名置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、会議を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 会議は、必要があると認めたときは、会議に関係者の出席を求め、説明

又は意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 会議は、必要に応じ部会を置くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、総合政策課において処理する。

(報酬)

第10条 委員の報酬は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年10月山添村条例第13号)で定めるところにより支給する。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、村長が別に定める。

附 則(平成27年7月31日山添村告示第55号)

この要綱は、平成27年8月1日から施行する。

附 則(令和元年6月28日山添村告示第34号)

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月1日から施行する。ただし、改正後のやまぞえ未来創生計画会議設置要綱(以下「新要綱」という。)第2条第2号及び次項の規定は、令和2年1月1日から施行する。

(山添村地方創生推進委員会設置要綱の廃止)

- 2 山添村地方創生推進委員会設置要綱(平成30年2月山添村告示第6号)は、廃止する。

(経過措置)

- 3 この要綱の施行後最初に開かれる会議は、新要綱第6条第1項の規定にかかわらず、村長が招集する。

附 則(令和3年5月17日山添村告示第54号)

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則(令和3年11月1日山添村告示第88号)

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則(令和4年4月1日山添村告示第41号)

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則(令和5年12月5日山添村告示第84号)

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則(令和6年3月18日山添村告示第20号)

この要綱は、公布の日から施行する。

2 やまぞえ未来創生計画会議運営規程

やまぞえ未来創生計画会議運営規程

令和元年6月28日
やま未来会議第1号

やまぞえ未来創生計画会議の運営については、やまぞえ未来創生計画会議設置要綱（平成27年7月山添村告示第55号。以下「要綱」という。）で定めるもののほか本規程によるものとする。

- 1 要綱第8条の規定に基づき、次に掲げる部会を置く。
 - 保健・福祉部会
環境保全、上下水道、環境衛生、保健、医療、福祉 など
 - 経済・建設部会
道路・交通、農林業、商工業、新規産業、雇用・就労、観光、交流 など
 - 総務・教育部会
安全・安心、情報・通信、学校教育、生涯学習、生涯スポーツ、歴史・文化、人権、地域内連携、広域連携、人口ビジョン、行財政運営、デジタル化の推進 など
- 2 部会は、会長が指名する委員で組織するものとし、委員はいずれかの部会に所属する。
- 3 部会に部会長を置く。
- 4 部会長は、会長が会議にはかつて選任する。
- 5 部会長は、部会の会務を掌理し、部会における審議の状況及び結果を審議会で報告する。
- 6 部会長は、当該所属委員のうちからあらかじめその代理者を指名する。
- 7 必要に応じ会長、副会長及び部会長をもって調整会議を開くものとする。

附 則

この規程は、令和元年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年6月6日から施行する。

第3章 こどもたちからの未来への提案



山添村住民参加促進体制支援整備事業支援業務

2025年6月20日実施

小中学生向けWS実施報告書

開催概要

**山添村の未来の姿（2035年）について、子どもたち自身が考え、意見を出し合う
子どもたちの声を、次期**やまぞえ未来地域創生計画**策定に活かす
意見収集・共有にはデジタルツール「Liqid（リクリッド）」を活用**

○日時

令和7年6月20日(金)

やまぞえ小学校 10:40～11:25（45分×1コマ）

山添中学校 13:40～14:30、14:40～15:30（50分×2コマ）

○参加者

やまぞえ小学校 小学6年生10名 社会科「政治・地方自治」単元

山添中学校 中学2年生19名 総合的な学習の時間（キャリア・地域探究）

○実施内容

やまぞえ小学校

- 「やまぞえの好きなところ」「もっとよくしたいところ」をLiqidに投稿

- 「こうなったらいいな」を「こえのたね」カードにかいてシール投票

山添中学校

- Liqidで事前に集めた意見を踏まえて未来の山添マップを作成

- 2035年の山添村のアクションを考え、アイデアを「こえのたね」カードにかいてシール投票



▲山添村Liqid「やまぞえのたね」



▲やまぞえ小学校



▲山添中学校

目的

なぜこの取り組みを行うのか（目的・意義）

山添村の未来を考えるプロジェクトの一環として、小中学生とともに村のこれからを考える。これは単なる学習ではなく、「住民の声から村の計画をつくる」プロセスの一部であり、将来の担い手である子どもたちが、自分たちの「願い」や「思い」を言葉にし、村づくりに参加する体験を提供する。

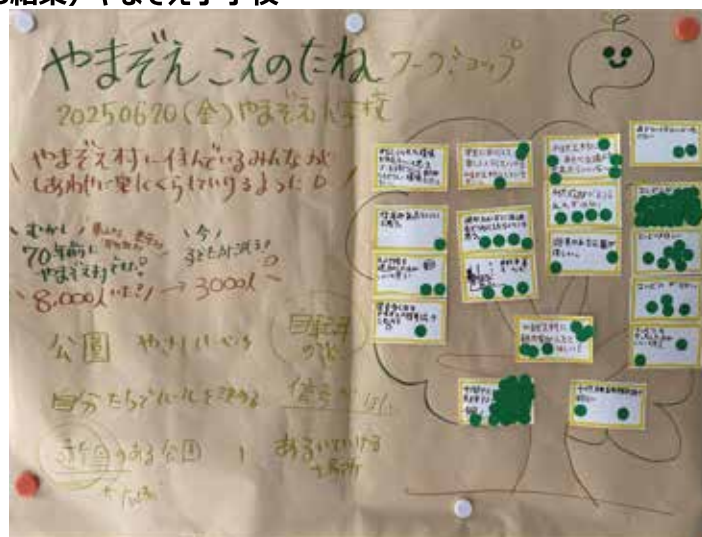
対象

- ・やまぞえ小学校6年生：10名
社会科：政治・地方自治の単元と連携。
「村の政治」「住民の声がどのようにまちづくりにつながるか」を、実感をもって学ぶ機会。
- ・山添中学校2年生：19名
キャリア教育の一環。「社会に関わる」「自分の意見を社会に届ける」という体験。

こどもたちの主な意見（WS結果）やまぞえ小学校

シール投票結果

- ① 商業施設（買い物・外食）
コンビニがほしい
- ② 公園・広場（遊び・交流）
こどもが遊べる公園、場所がほしい
- ③ 交通インフラ（移動・生活利便）
信号、スムーズに走れる道の整備
- ④ 地域活性化（働く場所・人口）
観光客が増えてほしい
- ⑤ 自然・環境（景観・安全）
安全に暮らせる環境、動物に優しい環境
- ⑥ その他（教育・文化）
中間、期末テストなし



こどもたちの主な意見（WS結果）山添中学校

シール投票結果

① 地域活性化（働く場所・人口）→ 15票

- ・6票：働く場所ができる → 人口増加
- ・1票：公共施設を増やす
- ・1票：他の村に山添を自慢することができる
- ・1票：人口が増える（移住者も）
- ・0票：こどもが増える
- ・0票：人気になる
- ・0票：観光地を作ること
- ・0票：観光地を快適にできる
- ・0票：みんなが働くことができる
- ・0票：モーターボートで有名になれる

② 公園・広場（遊び・交流）→ 11票

- ・8票：すぐにみんなと遊ぶことができる
- ・1票：公園がたくさんできる
- ・1票：つかれをいやすことができる
- ・1票：小さくてもよいから水族館ができる

③ 商業施設（買い物・外食）→ 9票

- ・3票：外食できる
- ・2票：買い物ができる
- ・2票：店が増える
- ・1票：買い物する場所ができる
- ・1票：生活用品が揃えることができる

④ 自然・環境（景観・安全）→ 8票

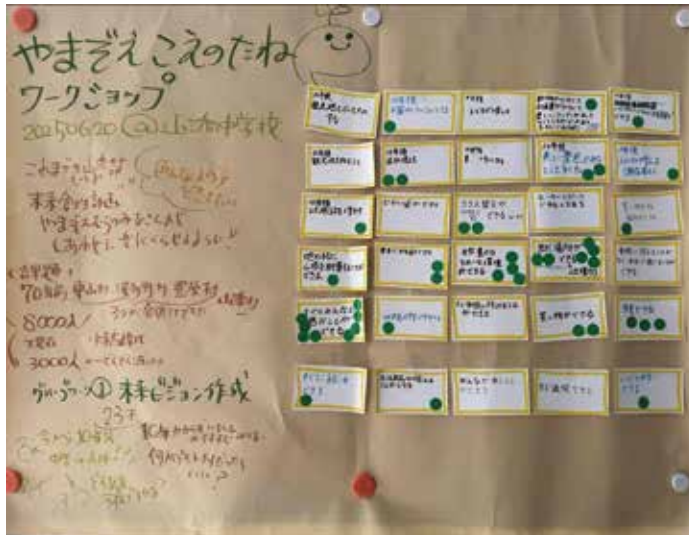
- ・4票：自然豊かなきれいな環境ができる
- ・2票：美しい景色があるところを多くする
- ・0票：動物が少なく交通量が少なくて楽しい山
- ・0票：動物に怯えることなく安全に過ごすことができる

⑤ 交通インフラ（移動・生活便利）→ 7票

- ・2票：電車で移動できる
- ・1票：移動が速くなる
- ・0票：でかい道ができる
- ・0票：すぐ通院できる
- ・0票：すぐに給湯できる
- ・0票：すぐ学校に行けることができる

⑥ その他（教育・文化）→ 2票

- ・2票：クラス替えができる（小・中）



こどもたちの主な意見（Liqid集計結果）1

"やまぞえ"の「ここがすき！」「もっとよくしたい！」をきかせてください！（やまぞえ小学校）

ワードクラウド

ワードクラウドとは、アイデアの単語の出現頻度を文字サイズの大小で表現したチャート。その出現頻度に応じた大きさで単語を表示することで、全体的なテーマや内容を視覚的に捉えることができる。



TttC (Talk to the City)

膨大な意見やアンケート結果の回答をまとめて、AI（人工知能）を使って分析・レポート化することができるオープンソースのアプリケーションを用いて論点を整理した。

● 自然環境	2件
山の魅力	1件
自然の豊かさ	1件
● 交通	1件
バスの利便性向上	1件
● 遊び場	1件
楽しい遊び場の増設	1件

みらいの“やまぞえ” こうしたらもっとよくなる（やまぞえ小学校）

ワードクラウド

ワードクラウドとは、アイデアの単語の出現頻度を文字サイズの大小で表現したチャート。その出現頻度に応じた大きさで単語を表示することで、全体的なテーマや内容を視覚的に捉えることができる。



TttC (Talk to the City)

膨大な意見やアンケート結果の回答をまとめて、AI（人工知能）を使って分析・レポート化することができるオープンソースのアプリケーションを用いて論点を整理した。

公園と広場		商業施設	
多目的広場	3件	サイクリスト向け施設	2件
遊具付き公園	3件	コンビニの増設	1件
広い公園	2件	ゲームセンター	1件
交通インフラ		地域活性化	
信号の増設	3件	森の開発	2件
道の整備	2件	MTBコース	1件
自転車道	2件		

2025/08/04

 L'Oréal Paris

7

11

山添村で「ここが好き！」と思う場所や風景はどこですか？（山添中学校）

ワードクラウド

ワードクラウドとは、アイデアの単語の出現頻度を文字サイズの大小で表現したチャート。その出現頻度に応じた大きさで単語を表示することで、全体的なテーマや内容を視覚的に捉えることができる。



TttC (Talk to the City)

膨大な意見やアンケート結果の回答をまとめて、AI（人工知能）を使って分析・レポート化することができるオープンソースのアプリケーションを用いて論点を整理した。

● 自然	12件	● 学校関連	5件
季節の変化	4件	グラウンドの円盤サークル	2件
神野山	3件	哲学の道	2件
自然豊かな場所	3件	学校の壁	1件
夜空	2件		
● 他人の家	3件	● 観光スポット	4件
家の庭	4件	めえめえ牧場	2件
自分の家	3件	わんぱく動物園	1件
家の中	1件	カントローパークオウゴ	1件
夏の家の近く	1件	● 道路とドライブ	4件
		奈良名張線・国道25線	2件
		ドライブスポット	2件

 Liquitex

8

山添村で「ここをもっと良くしたい」と思うことは？（山添中学校）

ワードクラウド

ワードクラウドとは、アイデアの単語の出現頻度を文字サイズの大小で表現したチャート。その出現頻度に応じた大きさで単語を表示することで、全体的なテーマや内容を視覚的に捉えることができる。



2025/08/04

TttC (Talk to the City)

膨大な意見やアンケート結果の回答をまとめて、AI（人工知能）を使って分析・レポート化することができるオープンソースのアプリケーションを用いて論点を整理した。

事業種別	事業内容	事業数
商業施設	コンビニ設置	4件
	小売店の増加	1件
	カフェの設置	1件
	娯楽施設	1件
	交通インフラ	6件
環境問題	動物対策	2件
	ポイ捨て対策	1件
	公共スペース	1件
	無料遊び場	1件
	信号の設置	3件
	道路舗装	2件
	道幅の拡張	1件

 Liquorous

9

10

2035年、山添村が「こうなったらいいな」と思うことは？（山添中学校）

ワードクラウド

ワードクラウドとは、アイデアの単語の出現頻度を文字サイズの大小で表現したチャート。その出現頻度に応じた大きさで単語を表示することで、全体的なテーマや内容を視覚的に捉えることができる。



TttC (Talk to the City)

膨大な意見やアンケート結果の回答をまとめて、AI（人工知能）を使って分析・レポート化することができるオープンソースのアプリケーションを用いて論点を整理した。

地域活性化	12件	インフラ整備	5件
人口増加	4件	スポーツ施設	3件
商業施設の充実	4件	交通インフラ	2件
観光資源の活用	2件	公園整備	0件
村から街へ	2件		
		教育と文化	3件
娯楽とイベント	6件	義務教育改革	1件
若者向け施設	3件	新しい学校設立	1件
イベント開催	2件		
除くスポーツ	1件		

 Liquorous

10

■ 考察・まとめ

こどもたちの主な意見

- ・お店がほしい（コンビニ・雑貨屋）
- ・公園や遊び場がほしい
- ・安全な道路・信号設置
- ・山添で働ける場所を増やしたい
- ・自然や景観を守りたい

小中ともに「**日常生活に直結する課題**」が多く出ている
中学生からは「**働く場所**」「**地域活性化**」など将来視点の意見も

自然や景観を守る意見は小中共通

→ これらは総合計画における「**子ども・若者の視点**」として重要

(写真等掲載予定)

やまぞえ未来創生計画

(第5次総合計画)

令和8年4月 策定

発行：奈良県山添村

〒630-2344 奈良県山辺郡山添村大西 151 番地

TEL:0743-85-0041 / FAX:0743-85-0219